

# 弘さんのお母様

關西 楓 一一 子

弘<sup>ひろし</sup>さんは名を蒲生と云はれまして今年の三月に中大江幼稚園を出られて小學校へは入られました可愛い坊ちやんです。

お母さんの重子さんは流行性寒胃にかゝられて先頃御逝去遊されましたが今年弘さんが幼稚園を出られて小學校へは入られましたので御父さんが御挨拶の御手紙を幼稚園に御越し遊ばしました其中に弘さんが入園當時の御母さんの御苦心の日記が少しばかり御書添へになつてゐられました私は其を拜借いたしましたして御許しも辱ませず失禮とは存じましたなれど心のゆかしさに思はず涙ぐみました、弘さんはもとより御父さんの御歎もさる事ながらせめてもの御母さんの御志の御慰めにとてここに書く事にいたしました無斷の罪御許し下さいませ。残念なのは日記が僅かしか其御手紙には

ない事で御座ります、いつか又全部を載いてそして何かの時にと思つてゐます。

すべての女性が男性化してゆかふくとする時に、どこまでも潜在の底力ある女性として日本の國の柱をゆるがない様にするかくれた母の力——何と美しい事ではないでせうか。

外に働く男、内に守る女、私はこうしてこそ我國は千載も變りなく榮えゆく國であると思ひました。

拜啓……………

……………長男弘儀永らくの間御厄介に相成幸に本月壹日を以て東區清堀小學校へ入學致候……………

……………右蒲生弘儀昨年四月初めて入園致し候當時四五日……………

間は何うしても壹人にて通園致さず之が爲に母は非常に心勞致し居り候處先生様方の慈母の如き御愛育に馴るゝに随ひ五日目頃よりは進んで參る様に相成壹ヶ年後の本年參月頃には東區山ノ下町（之は目下御轉宅されて大分遠方にて約往復一里位ありて電車にて通園）より毎朝通園致す様に相成全く性質一變致し候は皆々様の御保育のお力による所と深く感謝致候

左の拙文は昨年十二月八日死去致し候妻女重子が弘の爲に記入致し居り候幼稚園日記文に有之同じ思の母姉の御參考にもと少しく書き抜き致候

蒲生弘幼稚園日記（滿五年二ヶ月餘）

大正七年四月二日

母の自分が高（二男）を抱いて入園の心得を拜聽にゆく、約二百名程の參集であつた。保姆長より入園の覺悟に就て、又目的其他の注意事項、體格検査の事母姉會等に就て委しく御話を承はる。『大

膽な然も緻密な子供』にして頂く事や、體格検査を嚴密にして強壯な身體にして頂く事は何よりも望ましい事である。

大正七年四月六日 入園式の當日

六時半起床。近所の馬具屋から特に子供の爲に拵へて頂いた黒羅紗の鞆が大好きで小さき草履袋と共に肩にかけて入口を出たり這入たり、モウ如何にも嬉しさうにソハソハして八時半の時間を待ち兼て居る。前から用意して居た着物に白い前掛をさせ、雨天なれば向皮付の利久下駄をはかせて連れてゆくイン〜と喜んで居る。その姿を自分も幾分か打眺めて微笑まれた。

此れが弘の共同生活に入る第一歩、大きく云へば社會に踏み出す門出であると思へば非常に有意義なものとなる。

控室にて入園式が舉行せられ可愛らしい子供等の君が代やら園長様から御挨拶や御注意があり。幼稚園に子供を托されたる上は其目的を心得て總

てを一任せられたしとの御希望は御尤もと思ふ。

閉式後其れく保育室に引き取らる其時極めて目に着き易い鞆の弘の姿が見えぬのでハツとして見廻してゐる内に、フト泣き聲が聞える其は果して弘であつた。

快活にして物におぢげない、強い子供であると思つて居たのは、全く親の慾目であつたかと残念に思ふ。成るべく保育室に近よらぬ様にとの御注意であつたが重り合つて互に硝子戸越しに子供の様子如何と見守る。中には何うしても泣き止まぬ兒もあつたが先生様方の御力で漸く静かになる。

出席簿をよばれ、保育料の袋を配ばられ、サヨナラを教へられて今日はお終となる。

何となく進まぬ弘の顔色は初めて澤山の人の中に出て物おぢをしたのであらうか、ともすると、お母様く少時も傍を離さない。家へ歸つてもいきなり例のナンゾくくせがむ。

着物を替へて、手を洗つてからと云ひきかして

もきかぬのでどうも辛棒が出来ず、泣き叫ぶのを強いて二階へ連れてゆき戒める。

今歸つた計りで此騒ぎは全く恥かしい思がした。日記の初めに此の事實を記ねばならぬのは何よりも遺憾である。

大正七年四月七日 日曜

大正七年四月八日

朝寢床よりモウ幼稚園へは行かぬなど、折々口より漏れる。

今日も二男を抱いて一緒に行つてやる。行く時は流石に嬉しそうにインインと行く。第一鈴にて列をする時に並ばないので無理に連れて行けば母の手を離さぬ又袖を引く終には泣き出して仕様がなない。今日は五の組で此の子一人が泣いてゐるので自分も悲しくなる。何うしても手を離さぬ。お母様も一しよにと云つて席につかぬ。ホトく弱つてしまふ、人様の前でもあり又脱腸の兆候もあるので泣かす事も出来ず云ひきかせても聞き分け

なく、手を離せば泣く何うも仕様がな。其れでも室に入つて席につくとモウ泣き止んでおけいことして課せられた青い丸形の紙を五ツ張り付けてゐる、左の手がきように働く。

昨日も今日も文具店の前を通ると、アレを買つて下さいと強請するがきゝ入れなかつた。

然し明日から賢こう一人で行つて来れば色紙を買つてあげると約した。歸つた時のお禮は出来ました。

今日の事は誰にも云はぬ事にした。子供の前で厭がる事を云はない方がよいと思つた。

大正七年四月九日

今日は父上に送られて行く、三十分四十分お歸りが遅いので又離さないのかと母上と噂とりとの折に歸つて来られた。幼稚園の門を入ると物云ふ事も出来ず顔色も變りはきゝ／＼せないとの事にヤハリ弱い子供かとホツト嘆息する。黙つて歸つて来たから若し泣いて居るのではないかと心懸

りでならぬ。ソツと急いで行つて見ると室には入つておとなしくお話をきいて居るので此の分ならばと胸をなで下した。そしてよく云ひきかせて置て歸る。これからお節句のお馳走を頂くのだと喜んで居た。時刻を計つて電車道まで迎へに行つてやると知らぬ間に横切つてサツサと歸つて来る。

今日はマア無事に濟んだ、折に觸れては一人で行く様にと色々と言ひきかせてゐる又奨励の意味ですきなお菓子などを買つてやる。又入園の心祝にお魚などを求めて夕餉の膳を賑はした。

大正七年四月十日

里の母上より頂いた傘をさして今朝は雨が降ると云ふので特に付いて行つてやる、門までは無事、下駄を納めるまではよかつたが其から内へ入りさて歸ると云へば又泣き顔に變る。暫くは口が酸くなる程あれこれと云ひきかせて、ヤツと高(二男)が家で泣いて居つては困るからと、きりぬけて急ぎ歸る。案の定、高は大聲で泣いて居た。さて

も忙しき事。漸く一人で傘をさして歸つて來た。

大正七年四月十一日

毎朝、口と顔を一人で洗ふ様になつた、又お菓子を食べる時には先づ手を洗ふ習慣が出來た。

今日は壹人で出かける、たゞ電車軌道だけが案じられる。拾壹時頃門に出て見ると北の方よりサツサと白い前掛をして歸つて來る。内に入るとタダ今を忘れて、ナンゾが先になる。

大正七年四月十二日

モウ一人で威勢よく一人で出かける、初めの女々しがつたに似ず割合に早く一人でゆける様になつたのは全く先生のお蔭と不思議に思ふ。

大正七年四月十三日

時間を待ち兼ねて出かける。雨が降り出したので、傘を持つて行つてやると子供は目の早いもの直く見つけてお母様と馳て來て、此方がピツクリさせられる。定めの所へ傘を置いて、私はモウ歸りますよと云へば笑ひながらうなづいて居る。モ

ウ大丈夫だと安心する。

大正七年四月十六日

此頃は幼稚園へ行くのが面白くて仕様がないう様に自分で進んで喜んで行く、着物は内と外を着換させて居るが此頃は自分の方から着換させてくれと云ふ様になつた。『只今』と云ふ挨拶も馴れて來て一人で勢よく出る様になつた。

(全部原文のまゝ)

御手紙の日記は之だけである、僅か十餘日ではあるがほんとに涙ぐましい節々がある。

噫此御母さんはこふいふ子思ひの尊い聖い靈を以つて遂に美しい國へ行かれたのでした。

弘さんよ貴君は、此御母さんの永遠の愛、無限の愛に生きて健全に成育されん事を。

(大正八年四月十六日稿)